



# 同友しずおか

題字：塩崎敬子氏 三島支部

## 私の逸品

素材の特性を活かし新たなチャレンジ!

**(有) 浜松資材**

詳細は WEB で!

(浜松支部)

静岡同友会

検索



浜松資材(株)  
ポリウレタン  
ゲルシート  
TEL:053-462-8191



## 第47回定時総会IN岩手

特集

# 人を生かし、企業を変え、持続可能な地域をつくろう!

## ～エネルギーシフトで自主的・平和的な日本の未来を～

会員訪問記

**野口 繁明氏** (株)微助人・沼津支部

**下坪 力氏** (株)潮生館・志太支部

シリーズ

**経営指針** ～激動の時代の羅針盤～ **笠原 宏文氏** (株)あじはま企画・榛原支部

その他  
主な内容

中部ブロック役員研修会、支部だより、御殿場30周年記念事業、新入会員紹介、時評、友達の輪、イントロin同友会

### 平成27年度 重点課題

- ① 経営指針を成文化し、社員との共有・実践で、時代に対応する強靱な企業づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章推進の運動を広げ、中小企業振興基本条例制定をめざします。
- ③ 元気な企業と地域をつくるため、会員増強目標1200名を早期に達成します。



# 人を生かし、企業を変え、持続可能な地域をつくるう！ ～エネルギーシフトで自主的・平和的な日本の未来を～



1日目 全体会の様子

7月9～10日、東北岩手・盛岡の地に全国1017名、静岡同友会16名が参加し、第47回定時総会が開催されました。初日の全体会では、開催地を代表して田村満代表理事（岩手）が東日本大震災以降の全国同友の支援への感謝を交えて、また主催者を代表して鋤柄修中同協会長が「地域経済・社会の主役たる中小企業のリーダーシップを発揮していく団体へ」と挨拶。また来賓を代表して谷村久興会長（岩手県中小企業団体中央会）が震災支援への御礼と歓迎の挨拶をされました。その後、総会議案や規約改正などの提案が行われ、全体会は終了。引き続き、本

年度方針に基づく全16分科会に分かれ、活発な論議を交わしました（会員の分科会感想を下段に掲載しています）。

懇親会では水戸谷実行委員長の挨拶後、20名の来賓が登壇。来賓を代表して谷藤裕明盛岡市長が歓迎挨拶を、乾杯は田口幸雄頭取（㈱岩手銀行）が行い、参加者は地元の食を楽しみながら交流を深めました。

2日目は、来賓の達増拓也県知事から、「震災から4年と4ヶ月が経過。本格的な復興年として岩手県中小企業振興基本条例に基づく中小企業振興を進める契機」、また米村猛参事官（中小企業庁）は中小企業者への支援施策を述べ、「同友会との連携を強化していきたい」とそれぞれ挨拶。広浜中同協幹事長から「各同友会が立ち位置を自覚し、期待に応え、会員一人ひとりの力が十分に発揮される組織づくりを。同友会運動の確かな資産を活用し、次代に繋げていこう」とまとめ、満場の拍手で議案が採択されました。新役員を代表して鋤柄会長が挨拶し、各専門委員会の方針計画を発表しました。続いて、岩手同友会の河野和義氏（㈱八木澤商店）から、全国からの震災支援への感謝の言葉の後、参加者全員で「花は咲く」の大合唱を行い、会場を大きな感動が包みみました。

最後に来年開催地の大阪を代表して堂上勝己代表理事（大阪）が閉会挨拶を行いました。



感謝の言葉を述べる河野和義氏  
（㈱八木澤商店）

第3分科会 報告者：中山英敬氏（㈱ヒューマンライフ・福岡同友会）、加藤明彦氏（エイベックス㈱・愛知同友会）

## 「人を生かす経営」の実践が企業と地域の未来を開く

「労使見解」発表から40年企業づくり運動の成果と課題

中同協の今年度運動方針（議案書第1章第1節1「人を生かす経営」の総合実践）について、代議員としての立場で議論を深めてまいりました。全国大会、特に総会の中同協提供分科会はテーマが大き過ぎて参加し難い印象でしたが、自社の経営課題と合致する事もあり、期待も込めた参加となりました。

さて、総合実践とは何なのかは、議案書（中小企業家しんぶん 6月5日号）を読み返してください。その実践事例と結果について、福岡代表理事中山氏と愛知代表理事加藤氏に発表を頂きました。飛ぶ鳥を落とす勢いだった事業の崩壊に直面し、人間尊重経営によって再び育った社員達の自主的活動で再建を果たした中山氏。常に社員と危機感を共有し経営者の覚悟を見せる事で、社員との一体経営を実現し業績の拡大と世界に向けた強

靱な体質を作り上げた加藤氏。

全国大会や全県に参加すると何度も話しを聞く機会のある方々です。繰り返し聞く事で、両氏の実践はまるで自分の実践であるかような不思議な一体感を覚えます。これこそが辞書の1ページを得た事と自覚致しました。

ところで、この分科会のテーマと両氏の実践の基本にあるのは経営指針書の成文化です。成文化されていなければ上記の何も成し得ません。40年前に発表された労使見解から学ぶべき点として挙げられる重要事項です。今回、経営者の姿勢を指針書で表す事も「人を生かす経営」の総合実践のひとつとして明確に示され、労使見解と経営指針書の関連意義も再確認させていただきました。

小林 修氏（㈱ジープロシューマーズ・富士支部）

第15分科会 報告者：村松幸雄氏（信幸プロテック㈱・岩手同友会）

## 持続可能な地域づくりをめざして それぞれの企業、地域で実現するエネルギーシフト

第15分科会は、二つの施設を見学しました。柴波町のオガールプロジェクトは、駅前の10.7haの未利用町有地の整備事業です。行政、投資家、建設不動産、事業会社、NPOなどの提携で事業が進められました。化石エネルギーに頼らない再生可能エネルギーを使った町作りです。町役場、図書館、音楽ホール、体育館など全て地元産材を使っています。木の暖かみを感じます。役場の人も働きやすそうでした。サッカー場、公園、飲食等のお店、分譲住宅が整理されて作られています。木質バイオマスを使いエネルギーをまかなっています。エネルギーステーションの設備からのCO<sub>2</sub>の削減効果はチップ使用量250トンで約160トンが

算出されています。人と自然が調和し、子供、大人、老人にも優しい昔の良さが残る、自立したコミュニティが連想できます。

小岩井農場の㈱バイオマスパワーしずくいは、家畜排泄物と食品残屑を活用して発電や堆肥を製造する循環型のシステムを創り出しています。3000haの広大な土地はきれいに整備されており熊がトウモロコシを食べに来るそうです。

地球温暖化は確実に進んでいると思います。今回の見学例会では、地球に優しい町作りの実践を学びました。自分たちの家庭、会社、町内とできる事から始めていきたいと思いました。

原山 雅光氏（㈱原山・静岡支部）

## 中部ブロック役員研修会

7月15日、藤枝市文化センターにて、中部ブロック役員研修会が開催されました。本研修会では、佐野譲二氏（㈱和泉運送・県副代表理事）・河原崎信幸氏（シンコーラミ工業㈱・県副会長）が、同友会の歴史や自社における同友会理念の総合実践、同友会における役員とは何かについて、実体験を交えながら報告しました。

佐野譲二氏の、包み隠す事のない自らの体験談の中では「民主的ワンマン」の話が印象的でした。民主的ワンマンとは「決定するのはトップ。でも大切なのは聞く姿勢を持ちみんなが自由に意見をだし熟議する事」という事で、それは同友会も会社も同じだと感じました。



佐野 譲二氏

また、河原崎信幸氏からは「良い会社＝良い経営者。私たちは名簿に名前がある人同士ではなく辞書の1ページなんだ」と。自らの考えや思いを伝え切磋琢磨する。時には相手の懐に飛び込み認めてもらい、いろいろな場面に参加し刺激をもらう事で良くなっていく。共に辞書の1ページになり、共に良い経営者になる。さらに、共に良い会社になっていく。同友会とは楽しんで学び会社に活かす、ポ

ランティアではないという事も教えていただきました。

報告者を務める二人の偉大な先輩から、情熱とは熱いだけでなく、強い信念や、負けない心があってこそ情熱と言うのだと感じました。

深く濃い内容だけでなく、佐野氏と河原崎氏の話される姿にも、とても心を打たれました。そして、先達の思いを引き継ぐことで「“中小企業に光を”から“中小企業が光に”」へと繋がっていくのだと実感しました。

役員研修会というタイトルではありますが、全ての会員さんが聞かないと損をする内容だと強く感じました。



河原崎 信幸氏

萬年 美香氏（㈱クリスタル・ピュア・IVY・志太支部）

# 支部だより

富士宮例会

## 従業員ひとりひとりへの細かな気配り、 家族的な経営による働きやすい職場づくり

7月3日(金) 志ほ川 参加39名



後藤 芳氏

報告者は、富士宮市で化粧品用品OEM、化粧品用パフの製造販売、芳香剤の中芯等の打ち抜き加工を行うアコレ(株)の代表取締役、後藤芳氏。穏やかな口調のなかにもしっかりと芯が通っている事を感じ、後藤氏の仕事に対し真面目で謙虚な姿勢が参加者に

も伝わっていました。

従業員との接し方については、同じ土俵に上がっている事、いつも同じ方向(目標)を向き、その事についてよく口にする事などを話してくださいました。そのようなスタンスで働く後藤氏の姿を見て、家族や従業員も一丸となっている様が、後藤流の「人を生かす経営」ではないかと思いました。

また、面接時にスポーツスタックス(逆さまにして積まれたカップを重ねる競技)を用いて遊びの中でチャレンジ精神やユニークな発想を見抜く手法や、真剣に従業員と向き合いコミュニケーションをとる姿は「働きやすい職場づくり」のヒントになったのではないかと思います。

柔軟な対応で事業変革を行い自らの背中で従業員を引っ張る後藤氏の報告には、刺激を受けた参加者も多かった事と思います。

沼倉 雅文氏(沼倉工業(有)・富士宮支部)

静岡例会

## 私はこんな「良い会社」をつくりたい

7月14日(火) ベガサート 参加55名



松本 泰治氏

今月の卓話者は、松本泰治氏(有松本鉄工所)。旋盤加工やフライス加工を専門とした機械加工業として会社をスタート。各種産業機械の設計・製造や、工場内の各種運搬ラインの開発設計、産業機械の修理やメンテナンス・改造など、顧客の要望に

応える形で事業を幅広く展開されていく過程を聞くことができました。全社員がモノづくり業を支えている自覚を持ち、お客様の設備が止まった時に1秒でも早く復旧することを理解しているとのこと。印象的だったのが、お客様の機械が土曜日に故障した時、翌日は日曜日にもかかわらず、社員さんが機械の修理に協力するという社員の方々の会社に対する思いにも感心しました。松本氏は「顧客満足度、社員満足度が高く、社員の会社づくりに対するモチベーションが高い会社」、そして「社員の中でPDCAサイクルが回り、社

風として根付いている会社」にしたいとの事でした。

「社員のモチベーションを上げるための取り組みは？」をテーマとしたバズセッションでは、各々にいろいろと試行錯誤しているのが感じ取れました。「お客様に役立つ情報を提供すると頼られるようになり、モチベーションが上がる」「楽しい仕事をさせる。誉める」「仕組みでモチベーションを上げるのではなく、モチベーションを上げてから仕組みをつくる」などの意見が共有されました。

今回の例会に参加し、改めて、自分自身も考えさせられました。

望月 渡氏(モチツキオートボディー・静岡支部)

榛原例会

## あなたの会社に困った社員いませんか？

7月16日(木) さざんか 参加37名

今回は、県の共育ち勉強会でもたびたび議論されている「社員を生かすための本音の語りあい」をテーマに掲げて例会を行いました。議論するに当たり、社員数が多い松本憲治氏(松本印刷(株))からは社員が多いために困ってしまう事や「コンプライアンス」を理解していただけない社員についていろいろな工夫をしながら対応している事例の報告、池田直之氏(株池田製作所)からはまだ成熟していない社内環境について、若い経営者としての悩みが報告されました。報告のテーマが、多くの同友会メンバーが抱えている問題であったためか、バズの時間を50分と長めに設定したにもかかわらず、参加者からは「もっと話をしたい」という意見も挙がりました。

また、各グループの発表では報告者に対しての参考意見だけでなく、社内での困った社員への対応なども発表していただき参考になりました。

今回の例会で行ったように今後も、県の共育ち勉強会と内容をリンクさせながら社員教育について真剣な意見交換ができるようにしていきたいと考えています。

松下 幸示氏(株スーパーラック・榛原支部)

志太例会

## 会社を引き継ぐ、事業を引き継ぐとは、何を引き継ぐことなのか？

～中々言えない(聞けない)、引き継ぐ側の想いと悩み、そして受け渡す側の本音と悩み～

7月16日(木) 藤枝パークインホテル 参加28名



今回の志太支部例会は、新会員の寺坂磨氏(株育暮家ハイホームス)、藤田浩二氏(有山本鉄工)、中島篤氏(有アイ・ランド)、野島由美子氏(山内会計事務所)による報告から始まりました。各者各様の経営に対する考えや、同友会に

# 支部だより

寄せる期待を伺わせる報告でした。バズテーマとして、「会社を引き継ぐ、事業を引き継ぐとは、何を引き継ぐことなのか?」と題し、事業承継という深く難解なテーマに取り組みました。創業者、2代目・3代目の方、これから継ぐ立場の方・継がせる立場の方、各々の立場で思いの違いがあることが、この課題を難しくしています。しかし同時に、その差異こそ、誰しもが自分たちの会社を良くしようと思っている証だと思います。つまり、継ぐ者も、継がれる者も、ポジティブな議論としてこの課題をとらえるべきではないかと感じました。そして議論を繰り返すことで、経営理念の厚みを増すことができれば、会社にとって「事業承継」は最大のチャンスであるとも言えると思います。志太支部でも、このテーマについては、今後も議論していければと思いました。

水野 芳康氏(株)水野建築事務所・志太支部

富士例会

## 7月はみんなで経営分析しましょう!

7月16日(木) ロゼシアター 参加22名

報告者の伊藤光昭氏は、東京での就職を経て実家の伊藤金物(株)に入社。専務取締役として経営に携わる一方、中小企業診断士の試験に合格しました。7月例会では、その知識と経験を活かしてSWOT分析をわかりやすく解説。「SWOT分析とは、経営戦略を策定するために自社のS(強み)、W(弱み)、O(機会)、T(脅威)を分析すること…」といった教科書のような説明をただするのではなく、伊藤金物(株)をサンプルケースとして取り上げ、自身の会社の強み、弱み、機会、脅威について語りました。

伊藤氏の説明を受けながら、参加者全員も自社のSWOT分析をその場で実践。さらにクロスSWOT分析も行いました。バズセッションは互いの分析結果の披露と意見交換です。私の場合、案外自分では気付いていない強みや機会があることに気づかされました。

「経営者が中小企業診断士の資格を持っている」という強みを新たに手に入れた伊藤金物(株)。その強みを機会や脅威とクロスさせながらどんな経営戦略を練っていくのか?今後の展開から目が離せません。

佐野 純也氏(株)山十佐野製作所・富士支部

浜松例会

## 「良い会社」とは何か?

7月22日(水) クリエイト浜松 参加25名



内山 隆司氏

「『良い会社』こそが生き残る!~中小企業に求められるものは~」と題した、内山隆司氏(税理士法人東海浜松会計事務所)の報告でした。

内山氏は、数年前から「日本でいちばん大切にしたい会社」などの著書で知られる坂本光司法政大学教授のゼミで学び、現在はゼミの顧問を務め

ています。報告では、坂本教授と共に数多くの企業を訪問してきた立場から、「良い会社」とは何かについての視点が示されました。

坂本教授の掲げる「良い会社」とは、社員とその家族、取引先、顧客、地域社会、株主の5人の「人」たちを幸せにすることのできる会社だと言います。その中でも、経営者が一番に重視すべきなのは社員の幸せであり、社員が会社に大切にされていると感じ、誇りをもって働くことができれば、社員が勝手にお客さんも連れてきてくる、とのことでした。

また、経営者が重視すべき数値として5つの財務指標をあげ、それにあてはまる会社または近づきつつある会社の事例を紹介。内山氏自身、当時は坂本教授の言うような「良い会社」の存在に対して懐疑的だったそうですが、坂本教授と共に各地の会社を訪問し、良い会社の事例を目の当たりにするうち、考え方が変わってきたと言います。

中小零細企業にとって、指標の全てを満たすことは必ずしも容易ではないかもしれませんが、実際にこれを達成し、あるいは達成しつつある会社が日本各地に数多く存在することに勇気づけられると共に、どのような経営を目指すべきかを考えるうえで大変参考になる例会でした。

増本 志帆氏(大石康智法律事務所・浜松支部)

三島例会

## 幸せ創造企業を掲げ、山下直毅社長が行う経営実践

7月27日(月) 三島商工会議所 参加24名



山下 直毅氏

エアコン工事を主として創業した新入会員の山下直毅氏(株)サンアイ電工)の報告でした。当初は従業員が少なく、一社依存の経営体質も重なり、受注の最盛期になると元請の派遣社員のような働き方をさせてしまったこともありま

したこともありま。社員が働きたくなる職場を目指し、経営理念や社是を策定し、4年前から取り組む太陽光事業にも力を入れました。その結果、自社請けの仕事が増加し、売り上げをつくる仕組みを構築できました。現在、社員の物心両面の充実をはかる為に、まずお客様満足の追求と社員を増やし、同時に在庫の削減や月次の財務管理を図り、利益率を上げる企業体質を目指しています。今後の展望として、ゼロエネルギーハウスや蓄電池といった新しい事業にも挑戦していきます。

バズでは「経営理念をスタッフと共有するため何を重視しているか」を討論しました。経営理念を細分化した方針・戦略を共有する事、従業員を家族として思う事が前提であるとの意見が挙がりました。例会の最後に山下氏から「皆さんに本音で意見を言って頂き、同友会に入会して本当に良かった」と感想がありました。

# 『未来へつなごう30年の想い』



記念講演 講師  
磯崎 功典氏

7月14日(火) 御殿場高原ホテルにおいて、御殿場支部設立30周年記念式典を挙りました。支部会員、来賓の方々を合わせて総勢152名が参加。当初の目標であった「支部会員企業138社中、100社以上の参加!」が達成された周年例

会となりました。

式典冒頭には御殿場支部の30年を振り返るフォトムービーが上映され、設立当初の活動スナップや今とは違う先輩会員諸氏の肌ツヤの画像を見ながら懐かしさと、御殿場支部30年間の歴史を感じました。次いで歴代支部長7名への感謝状と記念品の贈呈が菅沼支部長より行われ、互いに記念品の似顔絵をみながら微笑む場面は印象的でした。

引続いて、講師に磯崎功典氏(キリンホールディングス(株) 代表取締役社長)をお迎えし、『キリンのCSV戦略』と題した記念講演が行われました。

「企業の成長は、共有価値の創造と社会問題の解決を同時に行うことで成り立つ」と、磯崎氏はご自

身の入社当時から経験談にエピソードを交えて非常にわかりやすく講演され、1. 小さな成果を積み上げて、活動を大きく育てていく事。2. 企業が成長するうえでの戦略的思考をもつ事。3. 自社の持つイノベーションや技術力を知的に活用する。4. 自分たちの持っている技術を周辺環境に合わせて活動する。以上4つの大切な心がけをご教授頂きました。

また、『トップが強くなければ会社も強くなれない!』など、様々な名言を残した講演には盛大な拍手が贈られました。

片野 貴一郎氏(㈱モスク・クリエイション・御殿場支部)



## 経営指針 第51回

「代表者が亡くなり困っている不動産屋があるから、やってみないか?」と父から言われたことが、我が社をはじめたきっかけです。その頃の私はサラリーマンで、不動産業を経験したこともありませんでした。しかもいきなり代表者という事で迷っていたところ、父が代表者になると申し出たので、不動産屋を承継しました。問題も多々ありましたが何とか5期目を終え、2011年9月、代表を交代しました。その年の3月に東日本大震災がありました。我が社のある御前崎市は①東海地震の震源地②原発があり危険③津波高予測21mもあるということによる影響が市内企業に出始めた時期でした。翌年、このままでは会社の存続が危ういと感じ「経営指針を創る会」へ入会しました。

受講して一番印象に残っている出来事は「あなたは外部環境のせいにして言い訳ばかりしている!」と言われたことです。心の中で「外部環境の変化で経営状態が悪くなったのだから仕方ない」と考え、そこから脱却しようとしていなかった自分がいることに気づきました。外部環境に左右されない経営を目指すことが、新しい視点で物事を考えるきっかけとなりました。

創る会には会社の悩みや業績を1年で改善してくれる秘密の方法があるわけではありません。経営するとは?社員とは?毎回受講することやスタッフの皆様による助言を頂くことであるいろいろなことに対して「気づき」がもたえます。自ら気づくことで経営理念や経営計画を作成することができますのだと私は思います。「経営指針を実行できるかどうかは本人次第」それを忘れないように現在はスタッフとして参加させていただいています。

経営指針を創る会9期卒業生  
笠原 宏文氏(㈱あじはま企画・榛原支部)

きらめきの感動を次世代へとつなげる

(株)微助人

代表取締役 野口 繁明氏 (沼津支部)

事業内容：広告、美術業（デザイン、ディスプレイ、ネオンサイン、電飾サイン、建築金物、オブジェ制作）

設立：1978年6月

従業員数：正規5名 パート2名

入会：1990年8月

所在地：沼津市大諏訪837-2

URL：http://www.be-squett.com/

技術を学び、積み重ねて得た“微助人オリジナル”の評価

(株)微助人は、沼津市片浜地区の準工業地域で37年間、サイン・広告塔・建築金物・ディスプレイ等をデザインから完成までワンウェイで手がける会社です。

野口繁明氏は1978年、25歳のときに勤務していたネオン会社から独立しました。「ゼロからのオリジナルティはない！」が野口氏の口ぐせで、「その時代の最高水準の技術を取り入れてサインを作り続けることで、やがて“オリジナル”と評価される位置に到達できる」と語ってくれました。

リーマンショック直後の危機から改革を断行

創業から20年間は時代の流れもあり、順調に推移して赤字決算を経験しませんでした。2000年以降、特にリーマンショックの翌年2009年は、大きな赤字に転じました。かつて経験のない事だったので、抜本的な

改革を断行します。まず、役員報酬の大きな見直し。そして、社員の出勤時間を8：00から7：00に早め、その1時間を、本社半径50Mの清掃ときめこまやかな作業手順の見直しにあてました。また、それまでゼネコンからの受注が60%だったところをクライアント直接受注に切り替え「100円のもの100円で」受注できる「クライアント発掘隊」を結成し徹底的に実践しました。その甲斐あって2011年の決算は黒字に回復し、以後も黒字決算を継続しています。



野口 繁明氏  
(D-village前にて)

技術とセンスを終結した「D-village」

「力だめし」と「経営理念の実践」と銘打ったプロジェクト「D-village」を、工期1年3ヶ月（基礎・鉄骨・本工事・スチールサッシ・オリジナル照明・外溝工事 等々）で直営にて完成し、2015年4月に竣工しました。ここには、(株)微助人の技術、そして野口氏のセンスが全て注ぎ込まれています。

2018年には事業継承を控えており、忙しい日々が続いているそうです。「次世代には、街がきらめくヒューマンメディアの感動を通行人（みちゆくひと）に伝えてほしい」と微笑みながら語っていました。

取材・執筆：片野 浩一氏 (宥弥生製作所・沼津支部)

老舗旅館の三代目社長、創る会で再創業を目指す

(株)潮生館

代表取締役 下坪 力氏 (志太支部)

事業内容：宿泊、宴会、会食

創業：1889年（明治22年）

設立：1965年（昭和40年）10月

従業員数：正規3名 パート7名

入会：2014年（平成26年）8月

所在地：藤枝市志太600-2-2

URL：http://www.chooseikan.com

創業126年の歴史ある温泉宿

今から126年前の明治22年に潮生館は創業しましたが、信州の材木商だった野口氏が一時志太温泉一帯と併せて手に入れたものの経営はうまく行きませんでした。その後、明治30年代に下坪氏の祖父である下坪宗二郎氏が野口氏から経営を任せられ、徐々に繁栄していきます。昭和8年に宗二郎氏は別邸・香梅荘を建立。昭和14年には本館を建て替え、現在に至っています。平成15年には建造物の文化的所産を評され、本館と香梅荘が登録有形文化財として国に認定されました。

入会のきっかけ

下坪氏の子息が静岡同友会事務局に入局したことが、同友会を知るきっかけとなりました。入会後は会員が自社経営について真面目に話し、取り組む姿勢に強く

感化されます。また経営者同士が腹を割って話せる環境を目の当たりにし、本音で言い合うことで自分や自社を変えていく重要性を感じたそうです。理念・指針がない現状と経営を立て直すべく、今年度第12期経営指針を創る会を受講しています。



(右から) 杉村征郎氏、下坪力氏、大石貴啓氏

指針で再創業

“いい宿”とは何だろうか。ホームページを作ることなのか。改装等の表面的な仕様を変えればいいのか。それで売上は上がるのか。歴史ある建物が故、現在の生活環境と対比してハード面の遅れを弱みと考えたこともありました。しかし建築士のお客様からの一言で変わりました。「職人の手で作られたものは、何年経っても変わらない」。歴史ある建造物を守る。戦術に右往左往するのではなく、潮生館そのものの価値に気付いた下坪氏。“いい宿”づくりを改めて決意しました。本年度、下坪氏は経営指針の確立を目指しています。創る会を再創業と捉え、藤枝には“いい宿”があることを知ってもらいたいと語りました。

取材・原稿：大石 貴啓氏 (タイケイ(株)・志太支部)

取材：杉村 征郎氏 (杉村精工(株)・志太支部)

## 新会員のご紹介 (敬称略) 会員数970名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
やました 山下 直毅	(株)サンアイ電工 太陽光発電、オール電化、リフォーム工事	三島	梶山 康行	おおいけせいいちろう 大池盛一郎	(有)カーライフ静岡 自動車販売、自動車修理・整備、損害保険取扱	志太	河原崎茂則
おおば 大場 豪文	ヒデ・マネジメントオフィス 経営コンサルタント	沼津	藤原 博美	おぐり 小栗 崇利	(株)小栗農園 お茶の加工業・販売業・卸業	榛原	鈴木 徹
はせがわ 長谷川 保	(有)ハセガワ電機 工場設備配線、新設、改造、修理	沼津	藤原 博美	さかにし 阪西 敏治	(株)エーグッド 教育研修サービス、試験配信サービス	浜松	金指精一郎
こばやし 小林 伸之	(株)小林自動車 自動車整備業 (全メーカー新車販売、各種自動車修理、保険取扱、電装品取付、钣金、塗装、加装、中古車販売・買取)	静岡	西本 幸一				

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

## 時評 マイナンバー制度のスタート、是か非か

2016年1月からスタートするマイナンバー制度への対応が急ピッチに進められている。税や社会保障の手続きにおいて企業がマイナンバーを取り扱う必要があるが、マイナンバーは特定個人情報として、企業に厳格な安全管理が求められている。このため雑誌や報道番組では特集が生まれ、書店には関連する書籍がずらりと並び、また、各種団体がマイナンバーをテーマにしたセミナーを開催し、企業の人事担当者等で状況を呈している。

マイナンバーに関しては、株式市場も熱い。(株)エヌ・ティ・ティ・データや(株)野村総合研究所など『マイナンバー銘柄』が軒並み高騰している。原因は、マイナンバーに関する設備投資である。国税庁・国税局・税務署・都道府県・市町村など関連する機関相互の情報システムの連携や民間企業での給与システムの更新・セキュリティ強化等、相当の投資が見込まれる。一説によると、これらの投資総額は数兆円規模になるといわれている。マイナンバー制度導入の目的は、政府が発表する以外にもあるのだと妙に納得する。

先行してマイナンバーと同様の制度を導入している米国や韓国では、「なりすまし」等各種の被害が報告されており、日本でもマイナンバーの利用対象を広げる将来においてその危険性が指摘されている。しかし後発の日本は先行の国の教訓を活かして、リスクを回避することができる。また個人としても事業者としても、リスクを理解して自分の身は自分で守るという姿勢が必要になる。われわれは、将来の世代の負担(借金)で巨額のインフラ整備を行っているのだから、マイナンバー制度を無駄な箱モノで終わらすわけにはいかない。

吉村 峰仙 (吉村峰仙公認会計士・税理士事務所・静岡支部)

## 友達の輪 第17回

「志太支部の松岡修造」こと(株)ニューウェーブの寺田卓正社長からバトンを受けました、静岡支部の山崎かおりです。寺田さんとは5年位前、経営指針を創る会で出会いました。そして現在も「戦略BASICS勉強会」で共に事業戦略を実行する為に励まし合いながら進んでいる熱い仲間です。会うたびに経営への情熱と元気を貰っています。寺田さんは鍼灸マッサージから企業への腰痛予防活動へと事業展開。私は、下請け板金加工業から自社商品開発へ展開。お互いに異業種だからこそ違う視点で意見を語り合うことができ、同じ釜の飯を食べた仲間だからこそ悩みを自分の悩みとして一緒にとことん考えることができます。

同友会に入会して7年。ここは、求めている人には運命的な出会いと勉強する場と共に乗り越えていくための心強い仲間ができます。求めなければ、素通りしていきます。

私は運命的な出会いを数々いただきました。今まで社内改革、新規事業への挑戦を続けていられるのはこの出会いがあったからこそだと感謝しております。

次にバトンをお渡しするのは、そんな運命的な出会いをし共に勉強してきた、「3つ子の母ちゃん」(株)サンディオスの津賀由布子さんです！

山崎 かおり氏 (株)山崎製作所・静岡支部



## 同友会イントロセミナー IN 同友会

7月28日(火) 同友会事務局 参加25名

藤原博美氏(株)日本ベルト工業・県代表理事)による報告でした。冒頭、廃業に関する2社の事例を挙げ、「会社が継続する事こそ、顧客に対する経営者の責任ではないか」と問題提起。その後、独立から現在に至るまでの紆余曲折や、同友会の中で全国の経営者から学び、模倣し、実践し続ける事で経営者として成長してきた今日までを語って頂きました。

飾らない実直な話、特別な技術や能力ではなく一歩一歩着実に自己変革して会社を大きくしてきた藤原氏の姿に、参加者からは「勇気づけられた」等の感想が挙がりました。



藤原 博美氏

### 同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。